

大学附属特別支援学校におけるネットワークを活用した 教育学部学生支援への取組Ⅱ

高市 幸造*1

＜概要＞ 通常の小中学校等の教員を目指している学生が介護等体験や地域の小中学校での体験実習を通して、特別支援教育への関心を高めるようになってきた。チャレンジキッズネットワークで得た知見を生かしたネットワークサーバー等を活用して、学生への指導を効果的に行う取組を継続して行っている。今回、介護等体験を受講した学生に対してアンケート調査を行い、介護等体験やサーバーに対する学生の意識調査を行った。

＜キーワード＞ 特別支援教育・学生支援・ネットワーク活用

1. はじめに

本校では、教育学部学生の介護等体験を毎年170名前後受け入れている。また、愛媛大学教育学部では、特別支援教育以外を専攻する学生についても、1回生では新入生セミナー、2回生では介護等体験、3・4回生では教育実習や地域連携実習等の活動で特別支援学校や地域の小・中学校の参観や実習、臨床研究等で特別な教育的ニーズのある児童生徒に関わる機会を多く設定し、特別支援教育の理解を図っている。

本校では、愛媛大学教育改革促進事業の一環として、こうした学生に対して、通常の小中学校での体験の中で起こる様々な疑問や課題に適切なアドバイスや支援ができる支援体制を整備するために、ネットワークサーバーを使って「学生支援室」をスタートした。

サーバーは、安定性や利便性から滋賀大学教育学部附属特別支援学校のチャレンジキッズ研究会が運用しているサーバーと同じファーストクラスサーバーを使用した。ネットワークサーバーの運用を開始(平成21年1月)して1年が経った時点で、学生の利用を推進するために、どのようにサーバーの改善を図っていくべきかを検討するために平成21年度に介護等体験を受講した学生にアンケート調査を実施した。

2. 目的

介護等体験を終えた学生の特別支援教育に対する意識調査を行うとともに、学生のサーバーに対する意識調査を行い、学生が求める使いやすいサーバーのデザインを検討する。

3. アンケートについて

1) アンケート項目

項目を次の①～⑤とした。

①本校での介護等体験に満足しているか。

(大変満足・満足・普通・やや不満・不満足)

②特別支援教育を理解することは重要だと思うか。

(強く思う・思う・それほど・全く思わない・分からない)

③特別支援教育について学びたいか。

(学びたい・思わない)

④本校にまた来てみたいと思うか。

(来たい・思わない)

⑤専用サーバーに何を期待するか。

(自由記述、いくつでも)

①・②は5択でその程度を質問した。③・④は2択でどちらかを質問した。⑤は自由記述で期待することを具体的に記述することを求めた。

2) 実施日

平成22年2月4日(木)

3) 実施方法

介護等体験の事後指導の講義の中でアンケートの趣旨を説明後、実施。提出は授業後、退出する際に提出する方法で実施した。

4) 回答数

対象学生数	170名(事後指導受講者数)
回答者数	170名
回答率	100%

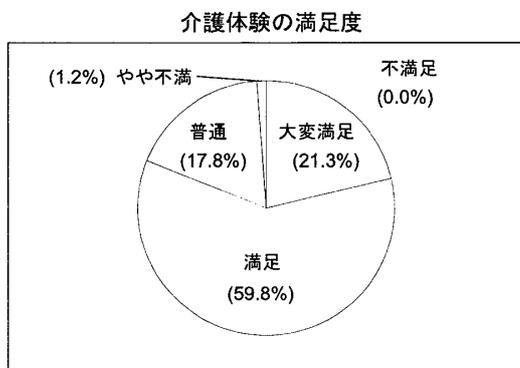
*1 TAKAICHI, Kouzou : 愛媛大学教育学部附属特別支援学校 e-mail : takaichi@edc.ehime-u.ac.jp

4. アンケート結果

集計結果は以下のようになった。

①介護等体験に満足しているか。

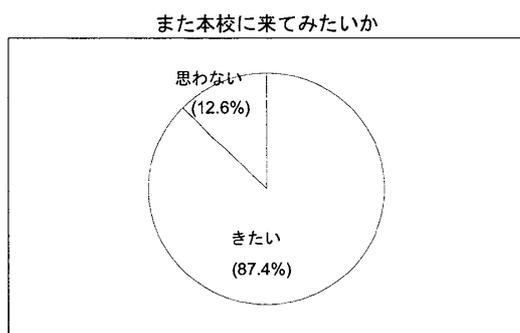
回答数 169



<大変満足 36・満足 101・普通 30
・やや不満 2・不満足 0>

②機会があれば本校にまた来てみたいか。

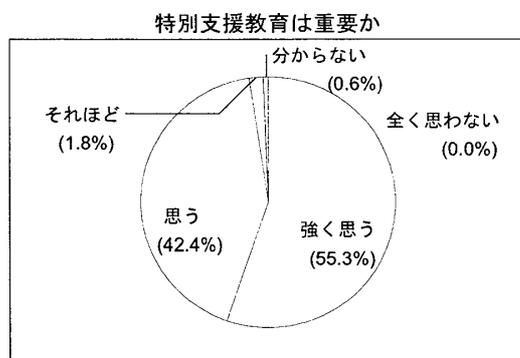
回答数 169



<きたい 146・思わない 21>

③特別支援教育は重要だと思うか。

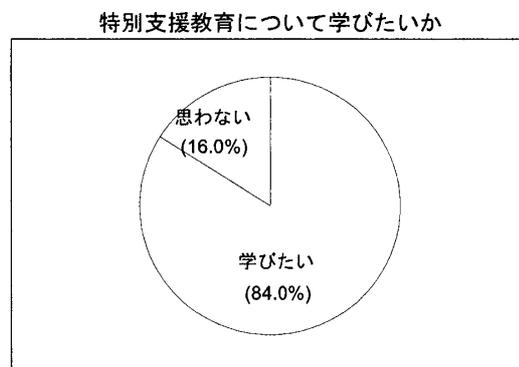
回答数 170



<強く思う 94・思う 72・それほど 3
・全く思わ 0・分からな 1>

④特別支援教育について学びたいか。

回答数 169

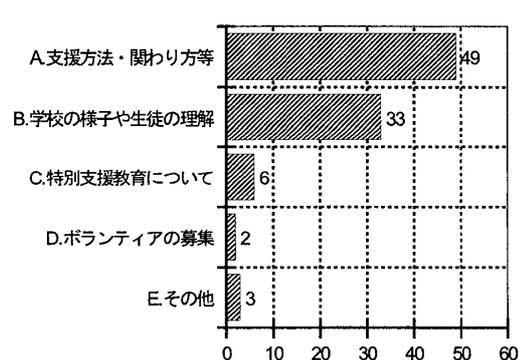


<学びたい 142・思わない 27>

⑤専用サーバーに何を期待するか。

記述項目数 93

記述された項目を分類すると次のようになった。



具体的には、次のような内容が記述されていた。

- A. については、生徒に対する具体的な支援方法や関わり方についてのポイント、体験中に起こったことで質問したら答えてほしい、体験を行った人の感想や体験談が見たい等。
- B. については、授業や日々の活動の様子で写真があるといい、行事の予定等。
- C. については、特別支援教育に関する参考書や特別支援教育の現状などの情報。
- D. はアシスタントやボランティアの募集。
- E. は受け入れる附属の教員の学生に対する感想やサーバーの文字サイズ等のデザインについて。などであった。

5. アンケート調査についての考察

1) 介護等体験について

介護等体験に関しては、アンケート項目①で80%の学生が満足と答えている。②で87%の学生が機会があれば学校にもう一度来てみたいと答えている。⑤の中に「ボランティアの募集」という記述があった。

本校の介護等体験については、通常の授業日に受け入れる・人数はクラス配当数が2名を超えないことを基本に受け入れており、児童生徒や教員との関わりが多く持てるようにしていることが影響していると考えている。

2) 特別支援教育について

特別支援教育を55%が特に重要、42%が重要と答えている。介護等体験を終えて特別支援教育を重要と考えている学生が多いことから、介護等体験の内容については妥当な内容で実施できていると考える。

機会があれば本校にまた来てみたいと87%が答えているが、現在の所、介護等体験を受けた後、教育実習や定期的に来校して授業に参加する学生が年に数名出ることもあるが、再度本校に来る機会が特にないのが実情である。

3) サーバーについて

サーバーに関しては、介護等体験を終えた後だけに、具体的に児童生徒とどのようにかわればよいのか、児童生徒の学校生活の様子など具体的な情報をサーバーで提供して欲しいという記述が多かった。また、特別支援教育を専攻していない学生だけに、障害に関する基礎的な知識を提供して欲しいという記述も多かった。2件と記述数は少ないがアシスタントの募集やボランティアの募集などをサーバーで行って欲しいという記述があった。

これらのことから、学生と本校をつなぐものとして、サーバーに期待する面がうかがえる。

4) アンケートのまとめ

初めて特別支援教育に関わる介護等体験の学生にとって、事前に学校や生徒の様子を知ることが、安心して介護等体験を受けることにつながるだろう。また、知り合った児童生徒とのつながりを維持できる方法が提供できると特別支援教育への興味や関心を持続できるのではないだろうか。

以上のことより、サーバーに介護等体験に来る前に本校の様子を事前にするのできる情報を載せることにした。情報についてはサーバーの安全性から、児童生徒の顔の見える授業風景の写真を使い、学生が親しみを持てるように配慮することにした。

また、サーバーへのアクセスするための登録については、介護等体験を受ける前に登録を行うことは、難しいので、事前指導の際に紹介したり、授業の紹介だけ見ることのできるIDを作成して知らせることにした。

6. サーバーのデザイン変更

1) 内容について

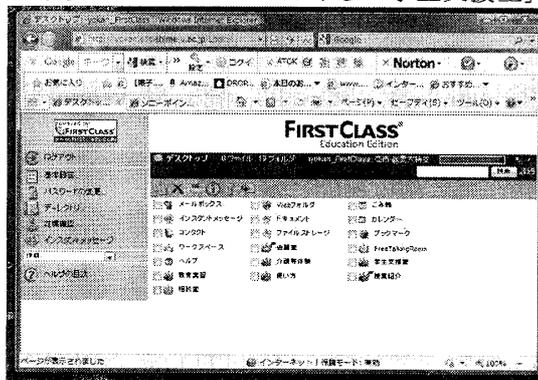
サーバーの中の会議室の内容は以下の通りである。

- 学生支援室
- 授業紹介（新規に作成）
- 介護等体験
- 教育実習
- 相談室
 - ・発達について――知的面、身体面、精神面
 - ・医療的ケアについて ・福祉について ・その他
 - ・障害について――知的障害、ダウン症、自閉症、ADHD、LD、アスペルガー症候群、身体障害、聴覚障害、視覚障害、てんかん、その他の障害
 - ・指導について――日常生活の指導、生活単元学習、作業学習、教科の指導、その他の指導
 - ・学級経営について――小学生、中学生、高校生
- 卒業生

アンケート調査の回答に学校の様子を知りたいという記述が多かったことから、平成22年度より、授業紹介のコーナーを新設した。事前に授業の雰囲気をつかんで介護等体験の初日を迎えることができるように、今後内容を充実させるように計画している。

2) Webのデスクトップ画面

本校のホームページにある「学生支援室」



からログインした際の最初の画面である。初めて見た学生にも、操作が分かりやすいとの感想が出ている。

3) 授業紹介の画面

授業紹介については、授業の雰囲気が分かるように、写真を使用した。添付ファイルにすると操作方法が分かりにくい学生もいると考え、画像ファイルを文書に貼り付けるようにした。そして、活動内容を大まかに説明するとともに、準備物や活動しやすい服装等について記載することにした。実際には以下のように見ることができる。



7. 利用状況

1) 登録者数

平成21年6月30日現在の登録者数は69名

平成22年7月12日現在の登録者数は243名

2) 運用開始からの利用状況

平成21年3月末までのアクセス件数130件。

平成22年1月末のアクセス件数253件。

3) 卒業研究での利用

平成21年度の卒業研究で本校との連絡用に、サーバーを実際に利用した。授業予定の連絡や授業の記録用写真ファイルの受け渡し等が中心であった。ファーストクラスサーバーの特徴として、サーバーに送信した情報を見たか、写真ファイルのダウンロードができたかなどの確認が互いに簡単にできるので大変便利であった。また、メールでは誤配信等の恐れがあるので、サーバーを利用することで、卒業研究の対象生徒に関する個人情報を安心して受け渡すことができた。

8. 今後の課題

1) サーバーの維持管理

現在、ファーストクラスサーバーは年間更新料として、ライセンス数に応じて更新料が発生するようになっている。年間更新を行っている、バージョンアップが無料でできるようになっているが、毎年、定額の予算を確保する必要がある。

2) 学生への周知について

平成22年度の介護等体験の事前の全体説明の時に、サーバーの紹介と登録に関するプリントを配布したが、プリントだけでは学生が進んでアクセスしようとならない。介護等体験を終えた後、所感文を書く時に、実際にサーバーに接続して内容を説明すると興味を示し、登録する学生が多かった。このことから、平成23年度の介護等体験の事前の全体説明の際に、実際にサーバーの内容を提示して説明し利用を進めることが効果的と思われる。

3) 平成22年度の実施について

- ① 授業紹介のコーナーの内容を充実させ、平成23年度からの介護等体験を受講する学生が利用できるようにする。
- ② 相談室の中に、具体的な指導事例を加える。
- ③ 年度末にサーバーに対する学生の意識調査を実施する。

(参考サイト)

チャレンジキッズネットワーク(会員制)

滋賀大学教育学部附属特別支援学校